

# 優秀賞



設計者

## 手嶋 保

■ 東京建築士会、(株)手嶋保建築事務所

戸建住宅(併用)

岡山県備前市

### 伊部の家

構造・階数

壁式RC造+木造、地上3階建て

敷地面積

183.92㎡

建築面積

94.56㎡

延床面積

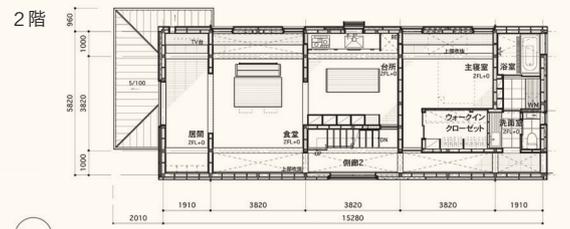
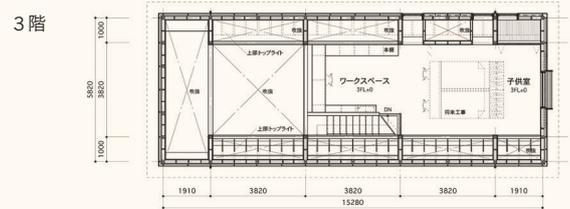
197.91㎡

竣工

平成24年4月15日



A



平面図

#### 選評

岡山県備前市に建つ陶芸家の工房と住宅である。

建物は西側の道路際に細長く敷地を囲むように建ち、周辺の風景を切り取っている。道が上り坂になっているため敷地は半階分下がっている。土に埋まった部分はRC造で工房として使われている。上部構造は木造で2、3階は住まいとしてつくられ、職住は明確に分けられている。

外観は単純な切り妻屋根で、外壁はこの地方独特の焼きスギ板で仕上げられている。そのためか周辺の環境に馴染んでいる。また、その効果をより表現しているのが、外部にあげられた開口部の数と位置にあると言える。デザインされた窓は壁と開口部の関係を問いただし、建築と風景のバランスを整えている。それだけで建物は素朴になり、日常的な風景をつくり出す。

平面は南北の長手方向に5分割され、領域を区切る門型の壁が、居間、食堂、台所空間を仕切っている。さらに、両側に設けられた側廊という回廊が張り巡らされ、一室空間が入れ子状に仕切られ、たれ壁でレイヤーがかけられている。この壁は、日本建築が持っていたたれ壁(下り壁)を新しい手法で表現し、空間に意味を生み出したとみられる。また、それぞれの室では、東西のトップライトからの自然光を木製のリフレクターによって拡散し、その光は頂部のポルト天井に反射し、住まいに時間や四季の移り変わりを伝える。

設計密度の高さが良質な住宅を生み出す源になっている点を高く評価したい。

(竹原義二)



B

- A 東側外観。1階はRC造の工房。2、3階は木造で住まいとして使われている。黒い外壁は焼きスギ板を使っている
- B 母屋より北側外観を見る
- C 2階食堂。奥に居間。壁は漆喰、床はナラ材で仕上げている
- D ポールト天井の3階子供室とワークスペース。東西のトップライトからの自然光が天井に反射し、時の移ろいを伝える
- E 1階工房。奥にろくろ室。左手に側廊が見える

写真撮影…西川公朗



C



D



E